

史書部



自昭和十二年十月
至昭和十三年十月

戰時旬報(第十五號附録)

第六師團司令部

203

0334

本旬報ハ北支轉進以降南京占領
迄ノ缺ヲ補ヒ且ツ綜合的所見ヲ
記載ス

0335

戰時旬報第十五號目次

第一 聖旨 令旨

第二 感狀 訓示

第三 所見

第四 上陸以後ニ於ケル衛生狀況

第五 經理(乘船ヨリ南京占領迄ノ給養補給)

別紙

第一 聖旨

第二 令旨

第三 湖東會戰ニ於テ中支那方面軍司令官

ヨリ授與セラレシ感狀

第四 千軍台ノ戦闘ニ於テ北支第一軍司令官

ヨリ授與セラレタル感狀

第五 南京攻略ヲ前ニシ中支那方面軍司令官

ヨリ授ケシ訓示

- 第六 南京占領ニ方リテ集團司令官ヨリ受ケ
シ訓示
- 第七 平望鎮支隊ニ對シ第十軍司令官ヨリ
授與セラレシ感狀
- 第八 十二月十八日中支那方面軍司令官ヨリ
受ケシ訓示
- 第九 歳末ニ方リ與アル師團長ノ訓示

0337

第一 聖旨 令旨

十一月二十八日賜ハリタル聖旨 令旨 及 方面軍司令官、奉答文 別紙第一、第二、如シ

第二 感狀 訓示

一、十一月三十日湖東會戰、快捷ニ當リ中支那方面軍司令官ヨリ別紙第三、如キ感狀ヲ授與セラル、光榮ニ浴ス

二、北支平軍台ニ於テ武勲ヲタテシ取³ⁱニ對シ十一月三十日北支第一軍司令官ヨリ別紙第四、如キ感狀ヲ授與セラル

三、十二月一日南京攻略ヲ前ニシ中支那方面軍司令官ヨリ別紙第五、如キ訓示アリ

四、十二月十四日南京占領ニ當リ丁集團司令官ヨリ別紙第六、如キ訓示アリ

五、十二月十六日平整錢支隊ニ對シ第十軍司令官ヨリ

別紙第七ノ如キ感状ヲ授與セラレ

六十二月十八日中支那方面軍司令官、訓示別紙第

八ノ如シ

七、一月月有餘ノ戦闘ヲ終リ直チニ蕪湖附近ノ警備ニ

任シアルニ多事ナリシ昭和十二年ヲ送ルニ方リ師

團長訓示スル所アリ別紙第九ノ如シ

第三 所見

一、鐵道輸送及乗船

鐵道輸送實施ハ概ネ順調ニユキシモ塘沽到着ヨリ

乗船迄ノ日時僅少ナリシ爲部隊ノ掌握不十分ニシテ

各種命令指示ノ徹底ヲ缺キ亦新作戦地ニ必要ナル

裝備ヲ整フル暇ナク上陸及其後ノ戦闘ニ若干困

難ヲ生セリ

二、上陸 戦闘

上陸作戰ハ極メテ複雑困難ナルヲ以テ揚陸計画適

切ナル、外關係各指揮官即各部隊長、輸送指揮官、
 揚陸作業隊長及碇泊場司令官ニ克ク徹底シ相互ノ
 連絡協同密接ニシテ其ノ實行ヲ溢帶、錯誤ナク圓滑
 ニ進捗セシムルコト極メテ緊要ナリ、然ルニ今次上陸作戰
 ニ於テハ八口浦ニ於ケル雷師團輸送船團ノ集結、充分
 ナラサルノミナラス、各船間ノ交通發動艇ノ運行意ノ如ク
 ナラサルニ爲作戰命令ノ下達分配、揚陸ニ關スル打合せ
 十分ニ出来ザリシ爲杭州灣上陸ニ際シテハ上陸部隊ノ
 順序ヲ紊リ上陸地ハ混淆シ名狀スヘカラサル混雜錯誤
 ヲ生シ爲ニ上陸ハ著シク遲延シ戦闘實行ニ多大ノ影
 響ヲ與ヘタリ、將來此種作戰ニ於テハ再ヒ之ヲ繰返サ
 サルコト緊要ナリ

三、敵情判断ト空中搜索ノ必要

支那軍ニ對スル敵情判断ハ常則ヲ以テ律シ難キ所アリ、
 例ハ八師團カ松江附近ヨリ敵軍ノ背後ニ突進セル際ノ

如ク敵カ左右ノ連繫ヲク雜然トシテ敗退スル場合師團
當面ノ敵情ニ依リテ敵ノ企圖ヲ判断スルコト極メテ困難
ナルヲ以テ之カ判断ハ全般の敵ノ行動ニ依リテ断スル外ナシ
又陣地ノ強度ノ如キモ其ノ構築状況ニ依ルヨリ寧ろ敵兵
力ノ大小特ニ全般の状況ニ依ルモノ多シ從ツテ飛行機
ノ活動ニ依ル空中搜索ノ價值極メテ大ナリ殊ニ師團
固有搜索機關ノ行動ヲ判断スル今次戰場附近ノ如キ
地形ニ於テ特ニ然リトス

四 歩兵獨力ヲ以テスル戰闘

上陸後砲兵ノ追及遲ク湖東會戰ニ於テハ殆ト歩兵獨
力ノ戰闘ヲ以テ終始セリ蓋シ上陸地點既ニ敵ノ側背
當リ亦全面的陣地ニ遭遇セザリシニ依リ砲兵ノ協力無
キヲ意トセス之ヲ最行シ得タルモ松江青浦及崑山ノ如ク
敵收容陣地ノ攻撃ノ如キハ歩兵隊ノ有スル重火器及
クレークヲ利用シ追及シタル獨立山砲ノ効果ニ俟ツヘキモ

五. 退路遮断並追撃

ノ多クシテ此ノ種ノ兵器ノ極メテ重要ナルヲ實証セリ

將兵ノ疲勞部隊ノ損傷及彈藥ノ缺乏等ニ拘束セラ
ル、コトナク猛烈果敢ニ敵ノ背後ニ突入シ又ハ追撃ヲ敢
行スルノ効果ハ特ニ湖東會戰間所々ニ見受ケシ所ナリ
例ヘハ蘇州河北岸ニ向フ師團ノ突進ニヨリ敵軍ヲ
全ク敗退ニ陥ラシメ又師團追撃隊タル歩兵第十三
聯隊カ三ヶ村附近ニ於テ敵縱隊ノ退路ヲ遮断シ之ヲ
殲滅セシメタルカ如キハ其ノ顯著ナルモノナリ

六. コクリークレヲ利用スル前進

中支一般ノ地形ハ新設自動車道ヲ除ク外殆ント畦道
ニシテ有力ナル部隊殊ニ車輛部隊ノ交通極メテ
困難ナリ此ノ場合地方舟ヲ蒐集シコクリークレヲ
利用スルコトハ迂回隊ノ派遣或ハ車輛部隊ノ輸送
或ハ彈藥糧秣ノ補給或ハ患者ノ後送等作戰上

極メテ有利ナリ

七

敵砲兵及迫撃砲ニ對スル戰闘

北支及湖東會戰ニ於テハ砲兵ヲ有スル敵ト戰

闘スルコト少ナカリシニ慣レ南京要塞ノ攻撃ニ當リ

此等火砲ニヨル損傷比較的大ナルニ鑑ミ常ニ對砲

兵の顧慮ヲ以テ行動シ砲兵ハ暴路陣地ヲ避ケ

或ハ不必要ナル人馬車輛等ヲ第一線ニ近ク出サ

サル等ノ着意必要ナリ

八城壁攻撃

直接城壁ニ據レル敵ヲ攻撃スルハ成ルハク之ヲ避ク

ルヲ要スト雖モ已ムヲ得サル場合ニ於ケル攻撃ニ當

リテハ城門又ハ城壁ニ突撃路ヲ構成シ突入ス

ルヲ一般トスルモ敵ノ注意ヲ避ケ奇襲的ニ小部

隊ヲ以テ梯子ヲ利用スル等ノ方法ニヨリ城壁ニ

攀登シ逐次戦果ヲ擴張スルモ亦有力ナル方法ナリ

九馬匹ノ損耗

道路泥濘ニシテ過大ノ輓曳力ヲ要求スル一方馬糧不十分加フルニ追撃ヲ要スル狀況ニ於ケル馬匹ノ損耗ハ著シク大ナルヲ一般トスルヲ以テ馬匹ノ愛護特ニ緊要ナリ亦斯カル狀況ニ於テハ砲兵ノ如キハ能力十分ナル馬匹ヲ選定シ砲數ヲ減スルカ又ハ中隊數ヲ減スルカニ依リ戰鬥能力ヲ發揮スル如ク縮成スルヲ有利トス

地形

上陸以後師團ノ作戰セシ地方ハコグレクノ網ノ目ノ如ク存在シ新設道(自動車道)ヲ除ク外ハ概ネ一列縦隊ノ小路ナリ
黃浦江蘇州河ヲ初メ大小コグレクニニ殆ント橋梁ナク之アルモ又破壞セラレ或ハ不完全ニシテ部隊及車輛ノ通過ノ爲ニハ豫メ午候ニテ之ヲ偵知シ

工兵の活躍ヲ期スル外ナシ 大河ノ渡河ニ於テハ地
方舟ノ甚集ルハ唯一ノ渡河準備ノ方策ナリ

二補給給養地方物資

今次作戰間ノ後方補給不可能ノ爲湖東會戰ニ於
テハ携帶糧秣四日分ヲ以テ十日間 崑山轉進ヨリ
南京攻略迄ハ崑山 松江及嘉善ニ於テ補給ヲ受
ケシニミ(大行李到着セズ)ニテ殆ント一ヶ月間ノ戰
闘行動ヲナセリ此間主トシテ地方物資ノ徵發ヨリ
給養セリト雖モ嘉興ヨリ秣陵關ニ至ル間ハ師團
重復セシ爲第二線兵團トナリシ師團ハ地方物資
ノ徵發困難トナリ師團ノ給養ハ著ク疎悪トナレリ
一般ニ中支那方面ハ北支ト異ナリ精米豊富ナルヲ
以テ作戰間ノ人糧ノ補給ハ容易ナルモ馬糧及調
味品ニ乏シ

三宿營

中支地方ニ於ケル部落ハ滿州及北支ニ於ケル集團的ナルニ反シ分散的ナルモ綜合宿營力ハ相當大ニシテ北支中支ニ於テ大ナル變化ナク給養モ概ネ良好ナラシムルヲ得

第四 上陸以後ニ於ケル衛生狀況

一 衛生機關ノ運用

ハ湖東會戰ニ於テハ上陸計畫中左右先遣隊ニ各50ヲ本隊ニ衛生隊主力及20ヲ附シ爾後其他ノ野戰病院ヲ追及セシムル豫定ナリシモ天候不良ナリシト共ニ軍ノ揚陸作業遲滯ヲ爲僅ニ右先遣隊ノ50ト20ノミ上陸シ而カモ20ハ人員ノミニテ材料ノ揚陸遲延シ週日ヲ要セリ之カ爲師團ノ神速ナル前進ニ追及容易ナラス本會戰中期ニ於テ漸ク追及シ得タル狀況ニシテ之カ爲師團ニ於テハ臨時救護班ヲ編成シ或ハ隣接師團ノ

衛生機關ト協力シテ傷者ノ收療後送等遺憾ナキヲ得タリ而シテ衛生隊主力及三箇ノ野戦病院ハ十一月十六日以後上海ヨリ上陸スルノ已ムナキニ至リ遺憾ナリキ

2. 南京攻撃ノ爲行動開始ノ十一月二十五日前後ニ於テ掌握セル衛生機關ハ衛生隊(内担架一中隊)コレラノ發生ノ爲松江ニ隔離セラレ缺)及用組ニシテ當時組ハコレラノ患者收容ノ爲松江ニ亦組ハ嘉善ニ開設セリ組組ハ十一月二十三日上海ニ上陸シ爾後師團ニ追及中ナリシモ師團ノ前進ハ愈々急速ニシテ十二月八日東善橋ニ達シ陣地攻撃ニ移ルニ至リテ同地ニ用(一)ノ開設ヲ命ス組(一)ハ尚到着セズ敵ハ頑強ニ抵抗スルモ攻撃逐次進展シ同九日夕組及組ヨリ連絡アリ組(一)ハ梁水ニ到着セルトノコトニテ約

0347

一百半行程達シテアリ依ツテ十日朝自動貨車ニテ
 班ノ一部ヲ輸送ニ出スト同時ニ班ノ連絡者ヲシテ
 速ニ進出スル如ク指示ヲ與ヘ同日午後三時半
 班ノ先發者西善橋ニ到着直ニ繃帶所ト交代
 セシ残余モ逐次到着ス次テ班班ノ先發者各
 自動貨車ヲ利用シテ到着班班ノ先發者各
 帶所ト交代開設セシメ班班ノ先發者各
 第一線ノ攻撃手進捗ト共ニ傷者多發シ西善橋ノ
 班(一之)ノ收容傷者三〇〇名以上ニ達シ亦約五〇〇米
 前方ノ安德門繃帶所ニ既ニ六十餘名ノ傷者ア
 リ依テ同所ニ班班ヲ交代開設セシメ茲ニ於テ
 逐次四箇ノ野戰病院ノ開設ヲ見ルニ至レリ
 二戰死傷病者發生狀況
 平病

杭州灣上陸以來平病損ニ減少セルモ湖東會戰

終了後ヨリ南京ニ向フ轉進ノ初期ニ亘リ下痢患者稍々多發シ加フルニ各隊ニコレラノ患者發生ノ徵ヲ認メタルニ依リ一時前進ヲ停止シ防疫業務ニ専心セシ爲十一月下旬以來全ク終熄ス爾來南京占領迄平病著シク減少セリ

2. 戦死 傷

上陸以來ノ戦死傷者總數ハ別紙ノ如クニ二二〇一名ニシテ内戦死五七一名 戦傷一六三名ナリ又會戦間比較的犠牲者ノ多發セシハ南京攻撃ニシテ戦死ニ二三名 戦傷一〇四名計一三六四名ナリ

三. 傷病者ノ收容後送

湖東會戦ニアリテハ師團衛生機關大部ノ上陸不可能ナリシト上陸部隊ノ追及困難トニ依リ軍醫部々員ヲ班長トシテ救護班ヲ編成シ戦傷者ヲ收容セシメタルモ軍ノ後送機關未着ノタメ後送

ノ途ナキヲ以テ偶々上海ヨリ彈藥糧食補給ノ兵站自
動車中隊ノ歸リ空車輛ヲ利用シ三一三名ヲ上海兵
站病院ニ後送セリ又南京占領後師團ノ蕪湖轉
進ニ際シテモ軍ノ患者輸送部ハ能力不足ノ爲
東善橋第一野戰病院ノ一四〇名ノ前送ヲ依託セ
ルノ外九〇〇名ハ衛生隊及師團輜重車輛ヲ以テ五
日間ニ亘リ南京野戰豫備病院及第六師團第一
野戰病院ニ輸送セリ

四 衛生材料補給ノ狀況

湖東會戰時携行衛生材料欽乏シ敵ノ遺棄ル衛
生材料ヲ徵發衛生材料ノ利用ニカムルト共ニ軍ニ
要求セシモ地理的關係上改メテ上海軍ニ依頼セシ
ニ速ニ自動貨車一輛豊富ニ輸送ヲ受ケ多大ノ便
宜ヲ得タリ爾後再度ニ亘リ飛行機ヨリ若干ノ材
料ノ投下ヲ受ケ益々治療ノ完壁ヲ期シ得タリ

五給水

中支 地方市街ヲ除ケハ井戸極メテ稀ニシテ殆ント
全部カケリク或ハ池水ニ依ル外途ナカリキ而モ
甚ク濁濁夜間ニ非サレハ到底使用敢テシ得サル
状況ヲ認メタリ此ノ際防疫給水班ヲ給水ニ盡カセ
ラレタルアリテ將兵一同蘇生ノ思ヒアリ又各隊ニハ輜
重車載式濾水機ヲ配當シアリシモ道路不良ノ爲
部隊ト行勤ヲ共ニスル能ハサル場合尠カラズ加之中
支轉進後ハ揚陸遅レ滞在以外ノ時ニ其ノ因患ニ浴
セシ機會ハ稀ナリキ濾水自動車又道路及重量
ニ制限セララルコト屢々ニシテ其活躍意ノ如クナラサ
リシハ寔ニ遺憾トス之ニ鑑ミ師團ニ於テハ山地
或ハ道路不良ノ状況ヲ顧慮スル場合ハ自動車載ノ
著脱式濾水機ヲ携行シ師團司令部及其ノ附近ノ部隊ニ
飲料水ヲ供給スル如ク常に給水班ヲ指導督勵ニ努メシアリ

0351

第五經 理 (乘船ヨリ南京占領迄、給養補給)

一、乘船地塘沽ニ於テ糧秣、被服給養器具、戰鬪資材等ヲ師團塘沽野戰倉庫ヨリ乘船各部隊ニ交付シタル際ハコレヲ流行ノ為輸送列車ノ塘沽到着後數時間ニシテ乘船セシ結果各部隊ハ之レヲ受領、運搬、積込ニ甚ク困難セリ

殊ニ一部ノ部隊ハ補給品特ニ新品軍靴等ノ所要數ヲ受領スルヲ得サルモノアリテ裝備ニ若干ノ欠陥ヲ生ジタルハ遺憾ナリ 將來船舶ニ依ル作戦輸送ノ際ハ乘船地ニ於テ相當ノ日時ヲ與フルコト肝要ナリ

二、上陸時ノ給養裝備

金山衛城上陸ノ際、給養裝備ハ乘船時携帶糧秣(人)甲一日分、乙三日分携帶燃料二箇(馬)制規ノ通大行李糧秣八人馬共ニ二日分ノ尋常糧秣ヲ積載スルコト、セシモ軍命令ニ依リ特ニ甲一日分ヲ増加ス

ルコト、ナリ船内糧秣ヲ以テ之ヲ補充セリ尚上陸當
日ノ夕食又ハ夕飼造ヲ携行スルコト、セリ

(但シ實際ニ於テハ更ニ上陸時刻ニ関セズニ食ニ飼分
ヲ携行上陸ス)

三、上陸後ノ給養法並糧秣補充

各部隊ノ上陸後ノ給養ハ兵站ノ補給開始ノ日時、地、
等不明ノ爲給養裝備セル糧秣及部隊ノ直接購買
又ハ徵發セル糧秣ニ依ルコト、セルモ住民遁走シアル
爲給^ハト全部徵發ニ依リタリ

但シ大行李車輛ハ追及遅レ、二部隊ノ大行李^ハ崑山ヨリ
轉進ノ途中ニ於テ追及セシ外ハ南京入城直前ニ於テ
漸ク追及シ輜重ハ南京入城後ニ於テ追及セル爲大部
分ハ馬共ニ給養ハ携帶糧秣ニ依レリ

其ノ補充ハ各部隊ノ直接徵發糧秣及師團經理部
ニ於テ徵發又ハ押收セル糧秣ニ依リ、師團經理部ニ

於テ補充セル場合左ノ如シ

- 一、金山 (徵發品)
- 二、白王廟 (追送品)
- 三、徐公橋鎮、白鶴港鎮及施記浜 (追送品)
- 四、崑山 (徵發品)
- 五、松江 (徵發品)
- 六、金山及松陰鎮 (軍野戰倉庫ヨリ)
- 七、楓涇鎮 (兵站ノ交付品)
- 八、嘉善 (兵站ノ交付品)
- 九、晟舍鎮 (徵發品及軍倉庫補給品)
- 十、廣德 (徵發品及押收品、追送品一部)
- 十一、碌口鎮 (徵發品及押收品、追送品一部)
- 十二、東善橋 (徵發品)
- 十三、鉄心橋 (徵發品)
- 十四、西善橋 (徵發品)

十五 南京

(徵發品、追送品)

十六 蕪湖

(徵發品、追送品)

四、大行李及輜重ノ携行

各部隊大行李ハ揚陸作業遅延ト金山衛城一帝林鎮
 一松陰鎮造ノ道路不良ノ爲追及意外ニ遅レ又輜
 重ハ前方糧秣ノ費消費量ヲ減少スルト共ニ軍直屬ト
 シテ各兵團ノモノヲ統一運用シテ上海一松江間ノ輸
 送ニ任セシメアリシ爲追及遅延シ爲ニ師團及各部
 隊共ニ多量ノ集合物資ヲ發見シナカラ之ヲ其當日ノ
 給養及携帶糧秣ノ補充ニ利用スルニ止マリ之ヲ運搬
 シテ爾後ノ給養ニ充當スル能ハサリキ

將來ハ斯カル場合ニ於テモ萬難ヲ排シテ必ス輜重ノ一部
 ヲ師團ノ直後ニ各部隊ノ大行李ノ一部ヲ各部隊ノ
 直後ニ跟隨セシムルヲ要ス

五、各部隊ノ給養實施

0355

各部隊金山衛城附近上陸後南京攻略迄ノ給養補給ノ状況ハ前記ノ通りニシテ追送補給困難ヲ極メタル爲給養ハ殆ント現地ニ於テ徵發セル糧秣ニ依リタリ幸ニ師團ノ作戰地域ニ於テハ至ル所精米ヲ徵發スルヲ得散在物資モ相當豊富ナリシ爲南京攻撃間ノ外ハ人糧ニ於テハ大ナル困難ヲ感セサリシモ馬糧ノ徵發ニハ頗ル困難ヲ感シ馬匹ノ保健上憂慮スヘキモノアリシモ立稻粉等ヲ代用スルノ止ムナキ場合多カリキ南京攻撃間ニ於テハ戦闘地域附近ノ物資ハ殆ント敵ニ依リ消盡セラレアリシニ依リ糧食缺乏スルニ至リ給養困難ヲ極メタルモ經濟部ニ於テ極力現地散在隱匿物資ノ蒐集ニ努メ且師團所有ノ貨物自動車ヲ極度ニ運用シテ遠ク南京南方二十數里ノ洪藍埠ニ於テ發見シアリシ精米ヲ輸送補給ニ努メタル結果漸ク給養ノ不足ヲ防止スルヲ得タリ

別紙第一

聖旨

方面軍司令官以下將兵一同力出征以來天候不順
給養ノ欽乏ヲ艱苦ト為サス海軍ト協力シテ寡兵
能ク堅陣ニ據レル敵ノ大軍ニ對シ日夜激戦ヲ續ケ
到ル處之ヲ撃破シテ戦果ヲ收メツ、アルヲ勞苦ニ思フ
今々時候寒冷ニ向ハントス各自一層堅忍自愛シテ
其重責ヲ完ウスル様申傳ヘヨ

宛宮内省武官府

宇佐美傳從武官長

奉答文

發中支那方面軍司令官

松井右根

今般狀況實視トシテ侍從武官ヲ差シ遣ワサレ優渥
ナル聖旨ヲ拜シ奉リ且臣石根以下將兵一同ニ御品ヲ
下賜セラレ寔ニ恐懼感激ノ至リニ堪エス謹ミテ御
禮申上ケ奉ル右執奏ヲ乞フ

(昭和十二年十一月二十八日)

別紙第二

令旨

方面軍司令官以下一同力出征以來凡ユル困難ト
危険トヲ冒シ勇戦奮闘速力ニ堅陣ヲ陷シ皇軍ノ
武威ヲ發揚セルハ洵ニ苦勞ニ思フ殊ニ君國ノ為
身命ヲ墮シ傷痍ヲ受ケ又ハ病患ニ罹リタル者ニハ
氣ノ毒ニ堪ヘス惟フニ時局ハ前途尚多事ナル
ヘシ全軍ノ將兵一層自愛シテ奉公ヲ勵ム様申
傳ヘヨ又傷病者ハ好ク勞ハリ遣ハセ

宛宮内省皇后宮職
廣幡皇后宮大夫 奉答文

發中支那方面軍司令官
松井石根

今般狀況實視トシテ侍從武官ヲ差シ遣フサレ優
渥ナル令旨ヲ拜シ奉リ且臣石根以下將兵一同ニ御
品ヲ下賜セラレ寔ニ恐懼感激ノ至リニ堪エス謹
ミテ御禮申上ケ奉ル 右言上ラ乞フ

(昭和十二年十一月二十八日)

0359

別紙第三

感狀

第六師團

獨立山砲兵第三聯隊第二中隊
獨立山砲兵第三聯隊第三中隊一部
無線電信第五十六小隊
無線電信第五十七小隊

右八十一月五日杭州灣上陸以來天候地形ノ險惡ヲ克服シ
テ急進シ八日既ニ黃浦江ヲ渡河シ上海周邊ノ敵ノ側
背ニ多大ノ脅威ヲ及ホシ以テ敵戰線崩壞ノ動機ヲ與
フ九日師團長ハ當時跟隨シ得タル火砲ハ山砲數門ニ過
キス糧食彈藥亦欽乏シアルニ拘ラス戰局ノ大勢ニ稽入
獨斷追撃ニ決シ夜陰ヲ衝キ泥濘ニ塗レ北進ヲ續行ス
此間或ハ余山鎮ニ於テ萬餘ノ敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘ
或ハ青浦ニ於テ守兵ヲ包圍擧殺シテ長驅急進十一日

夜蘇州河ヲ渡河シ敵士ノ背後ヲ衝ク等迅速果敢敵ヲシテ對應ノ違ナクシテ各方面軍主力ヲ追撃ノ端緒ヲ啓キタリ特ニ歩兵第十三聯隊ハ三家村附近ニ於テ上海ノ崑山道ヲ遮斷シ且夜間三回ニ互リ數々ノ敵ヲ巧ニ殲上ニ誘致シ之ヲ殲滅シ軍機ニ洩ル其他多數ノ戰利品ヲ獲タリ尋テ十五日師團ハ急遽崑山附近ノ敵陣地ヲ攻略シ敵ノ主要退却路タル崑山ノ蘇州道ヲ分斷シ敵ノ死命ヲ制セリ之ヲ要スルニ師團ハ師團長以下堅忍持久克ク神速ナル機動ヲ敢行シ進ンテ危地ニ突入シ敵ノ退路ヲ遮斷シ且敵ニ殲滅的損害ヲ與ヘ全軍大捷ノ因ヲ啓キタルモノニシテ其功績拔群眞ニ全軍ノ模範トナスニ足ル依テ爰ニ感狀ヲ授與シ其名譽ヲ顯彰ス

昭和十二年十一月三十日

中支那方面軍司令官松井石根花押

0361

感 状

歩兵第二十三聯隊第三大隊(第十第十一中隊欠)

第八中隊

速射砲中隊第一小隊(分隊欠)

同 同

右ハ牛島支隊長ノ隷下ニ在リテ戰鬪セル歩兵第二十三聯隊ノ右第一線トシテ昭和十二年九月二日以來板橋村附近ヨリ午軍台附近ニ至ル敵陣地ノ攻撃ヲ命セラルルヤ第三大隊長陸軍歩兵少佐河喜多藤基指揮ノ下ニ艱難ナル山地ヲ死守セル敵ニ對シ終始積極果敢ナル攻撃ヲ以テ逐次之ヲ撃破シ執拗ナル敵ノ逆襲ヲ采ク撃退シ特ニ九月八日約三千ノ敵ノ逆襲ヲ受クルヤ進シテ攻撃ニ出テテ之ヲ潰滅シ又九月十三日敵ノ最モ頑強ニ死守セル標高一〇〇米取高峯陣地ヲ力攻シ敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘテ之ヲ奪取セリ此間幹部以下ノ死傷多大ナリシト

補給ノ極メテ困難ナリシトニ拘ラス克ク飢渴ニ堪ヘ有ユル
艱苦ヲ忍ビヒ堅忍十數日常ニ積極勇敢ニ任務ニ邁進シ
遂ニ敵陣地ノ銷鑰タル最高峯陣地ヲ奪取スルニ及ヒ敵
ヲシテ全面的ニ大寒領以西ニ退却スルノ已ムナキニ至ラ
シメタリ
當部隊ノ勇敢ナル行動ハ敵カ大兵ヲ以テ我側面ヨリ北
京平地ニ進出セシトモ企圖ヲ挫折セシメ且牛島支
隊ヲシテ涿州保定會戰ニ参加スルヲ得シムル端緒ヲ開キ
タルモノニシテ其功績偉大ナリ
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十二年十一月三十日

第一軍司令官

香月清司

0363

別紙第五

訓示

御稜威ニ依リ湖東會戰ニ快捷ヲ博シ優渥ナル勅語ヲ
 拜受ス予ハ全軍將兵ニ代リ謹ミテ奉答シ前途ノ萬
 難ヲ克服シ皇軍ノ威武ヲ顯揚スヘキヲ誓ヒ奉レリ
 然ルニ爰ニ新ニ南京攻略ノ大命ヲ拜シ寔ニ感激恐
 懼ニ堪ヘサルモアリ全軍將兵亦發奮心動キ肉躍ルノ
 感アルヲ信ス南京ハ既ニ指呼ノ間ニ在リ將兵宜シク
 戮力奮戰果敢急進速ニ抗敵ヲ擊滅シ上宸襟ヲ安ン
 シ奉ラムコトヲ期スヘシ若シ夫レ所在無幸ノ民衆ハ
 固ヨリ既ニ抵抗ノ意ヲ喪ヒタル敵軍ニ對シテハ寛容
 之ヲ遇シシ克ク全軍ノ軍紀風紀ヲ振肅シ皇軍一過
 支那軍民ヲシテ敬仰歸服セシムルノ概アルヲ要ス

昭和十二年十二月一日

中支那方面軍司令官 松井石根

別紙第六

訓示

集團ハ上陸以來月餘ニシテ敵ノ首都南京ヲ占領シ
 近ク入城ノ式ヲ迎ヘントス感慨轉々切ナルモノアリ
 茲ニ隸下將兵ノ忠烈ニ對シ深甚ナル敬意ヲ表スル
 ト共ニ思フ戰歿將兵ニ致シ惻隱ノ情寔ニ深シ
 惟フニ時局ノ前途ハ尚遼遠ニシテ集團ノ任務ハ更ニ
 重且大ヲ加フ
 冀クハ止マリテ警備ノ任ニ就クト進ンテ敵ヲ撃ツトラ
 問ハス更ニ緊張一番有終ノ美ヲ收メ邦家ノ負荷
 ニ應ヘンユトラ

昭和十二年十二月十四日

丁集團司令官

柳川平助

別紙第七

感状

平望鎮支隊

歩兵第二十三聯隊第三大隊

獨立小砲兵第三聯隊第二中隊ノ一小隊

工兵第六聯隊第二中隊(二小隊欠)

師團無線一分隊

右ハ河喜多少佐ノ指揮ニ屬シ作戰上ノ要點タル平望鎮ヲ占領シ命セララルヤ十一月十日松江附近ヨリ孤立克ク小兵力ヲ以テ長途至難ナル水路作戰ヲ敢行シ途中西塘鎮蘆墟附近ノ要衝ヲ奇襲シテ十四日黎明遂ニ平望鎮ヲ急襲シ敵ニ殲滅的打撃ヲ與ヘテ之ヲ占領セリ

支隊ノ神速ナル平望鎮ヲ占領ハ敵ノ堅壘ヲ誇リシ福山附近ヨリ蘇州蘆墟嘉善附近ヲ經テ乍浦附近ニ

亘ル防禦戰ノ中央ヲ突破シ完全ニ蘇州、嘉興間及
蘇州湖州間ノ敵ノ重要ナル交通線ヲ中斷シテ敵ニ
至大ノ打撃ヲ與ヘ軍ノ作戰ヲ容易ナラシメタルモ
テ其功績偉大ナリ
依テ爰ニ感狀ヲ付與シ其名譽ヲ顯彰ス

昭和十二年十二月十六日

第十軍司令官陸軍中將 柳川平助

0367

別紙第八

訓示

湖東會戰ニ引續キ勇猛果敢ナル追撃ニ依リ一擧首都
南京ヲ攻略シ茲ニ歴史的壯舉ヲ完成シタルニ方リ重テ
優渥ナル聖旨ヲ辱シ感激措ク所ヲ知ラス
不肖石根之ヲ以テ克ク任務ヲ達成シ上聖明ニ對ヘ
奉ルヲ得タルハ實ニ參加將士ノ力戰奮闘ニ俟ツモノニ
シテ深ク其勞ヲ多トスルモノナリ然リト雖時局ノ前途
ハ遼遠ニシテ軍ノ任務ハ愈々重キ叙毫ノ倦怠ヲ許サス
將兵相戒メテ一層奉公ノ誠ヲ竭サンコトヲ期スヘキナリ
全軍須ク統率ノ眞義ヲ確認シ一層軍紀風紀ヲ振
肅シ經驗ニ基ク教育訓練ニ力メ戦力ノ充實ヲ圖
リ以テ次期作戰準備ニ遺憾ナキヲ期スルト共ニ敬言
備ヲ嚴ニシ軍機保護ヲ密ニシ治安維持ヲ全クシ以テ
不逞ノ徒ニ蠢動ノ余地ナカラシムヘシ

若夫レ所在民象ニ對シテハ東亞百年ノ計ニ繕ヘ皇軍
ノ傳統ニ則リ惡政ニ呻吟セル彼等ニ寧口憐愍ノ情ヲ
加ヘ克ク指導啓蒙スル等宣撫宜シキニ協フヲ要ス
抑々皇軍ノ操守ハ戰事ノ繁閑ニ依リ差異アルノ理ナ
シ全軍將兵相戒飭シ戰果ノ維持擴大ニ取善ノ努
力ヲ傾到シ以テ皇軍ノ威信ヲ顯揚スヘキナリ
右訓示ス

昭和十二年十二月十八日

中支那方面軍司令官 松井石根

0369

別紙第九

歳末ニ方リ與ル訓示

茲ニ多事多端ナリシ昭和十二年ヲ送ルニ方リ一言
訓示ヲサントス

回顧スルニ昭和十二年ハ皇國日本ノ一大飛躍的時期
ニシテ去ル滿洲事變ト共ニ我帝國ノ歴史ニ一大光
彩ヲ放テル年ナリ又我第六師團ノ歴史上特筆ス
ヘキノ年ナリ而シテ其ニ其跡ヲ顧ルニ是ニ一ニ一般
將兵ノ奉公ノ誠ヨリ出シ結果ナルコト勿論ナリト雖モ敵
彈ニ墮レ或ハ傷キタルニ千九百五十二名ノ犠牲的精
神ニ負フコト特ニ大ナリ茲ニ歳末ヲ送ルニ方リ尊キ
犠牲者ニ對シ深甚ノ感謝ノ意ヲ表スルト共ニ昭和十
三年度ハ更ニ一同練成ノ精到ヲ期シ以テ國威發揚
國力進展ノ礎石タラシメンコトヲ望ム

右訓示ス

昭和十二年十二月末日
第六師團長

谷 壽 夫

0371